

海況速報

平成9年度 第4号(通算 No.58a)
平成9年10月21日
北海道立水産試験場

内容についての問い合わせは

中央水試海洋部 0135-23-4020

9月下旬～10月上旬の海況

【日本海海域】

道北日本海の観測は、現在行われている日本海スケトウダラ共同調査終了後になります。

本道西岸には、前回に引き続き暖水渦が積丹半島西方沖(中心:200m層水温3℃以上)にあります。この暖水塊の本道側では、積丹半島付近から瀬棚方面にかけて50m層では9℃以下の、100m層では5℃以下の冷水域が形成されています。また、瀬棚付近から津軽海峡方面に向け、本道西岸に沿って表面で冷水域が形成されており、江差沖では17℃以下となっています。

瀬棚西方、北緯42度30分線を北上する対馬暖流の流量は前回に比べ大きく減少し、1989年の観測開始以来、周年を通して最低の値(全体平均の6%)となっています。

水温について見ると、暖水渦・冷水域を除き、累年平均(*1)に比べ-2～0℃のところが多くなっています。特に、北緯42度30分線の最も沿岸寄りの観測点の50m層では、水温が7.6℃(累年平均に比べ-5.2℃)となっていて、1989年以来最も低い水温となっています。

余市における8月下旬以降10月中旬までの沿岸水温(旬平均)は、平年値に比べ、9月上旬の+0.1℃から10月上旬の-1.1℃の間(「平年並み」から「かなり低い」状態)で推移しました。

【道東太平洋海域】

北緯41度以北の海域に入り込んでいる大きな暖水塊(中心:200m層水温8℃以上)は、大型のまま勢力を保ち続け、前回(8月)よりもさらに北東側に移動してきました。このため、暖水塊と道東沿岸の間が狭くなり、この海域での親潮の面積が狭くなっています。また、親潮の一部(この場合例えば100m層水温5℃以下)は、この暖水塊の東側、東経146度よりさらに東側を南下しているようです。この時期に、大型の暖水塊が道東沿岸にここまで接近した例は少なくとも過去10年間にはありません(*2)。

水温について見ると、暖水塊内を除き、累年平均に比べ、道東沿岸沿いでは-2～0℃の範囲内が多く、その他では-2～2℃の範囲内が多くなっています。

【道南太平洋海域】

道南太平洋海域では、200m層で前回(8月)に引き続き水温5℃以下の親潮の影響が広がりました。100m層においても、前年同期(10月)では水温9℃以下のところはありません。

ませんでした。今回は観測海域の北側半分では昇温が遅く、ほとんどのところで8℃以下になっています。このように、親潮の影響が強く残っているのは、津軽暖流がまだ渦モード(*3)になっていないので、津軽暖流の影響が北海道側にはまだ大きく及んでいないためと考えられます。

水温について見ると、累年平均に比べ、白老南方観測線上の恵山東方以南の海域と、浦河南西観測線の青森県尻屋崎東方海域100m以浅で-1～1℃の範囲内が多くなっています。しかし、その他の海域では各層とも、累年平均に比べ、-6～1℃の範囲内にあり、やや低いからかなり低い水温となっています。

【オホーツク海海域】

宗谷海峡東部から知床岬沖までの沿岸に沿って宗谷暖流が明瞭に見られます。また、宗谷暖流の沖側の冷水帯は宗谷海峡の東部にだけはっきりと見られます。

水温について見ると、累年平均に比べ、表面では-1～2℃の範囲内にあるところが多く、宗谷暖流域内の50m層以深の最高水温帯では、-2℃前後のところが多くなっています。宗谷暖流より沖合の冷水域の50m層以深では、累年平均に比べ、-2～-1℃の範囲内にあるところが多くなっています。宗谷暖流の幅が網走湾から知床岬に沿ってやや狭くなり、沖合から冷水が張り出してきているところの50m・100m層では、累年平均に比べ、-7～-5℃になっているところがあります。

	資 料	〔観測期間〕
青森水試 (東奥丸)	平成9年9月30日～同10月1日	(東北日本海海域)
稚内・網走水試 (北洋丸)	平成9年9月29日～同10月1日	(オホーツク海海域)
稚内水試 (北洋丸)	(近日中に観測予定)	(道北日本海海域)
釧路水試 (北辰丸)	平成9年10月2日～同10月5日	(道東太平洋海域)
函館水試 (金星丸)	平成9年9月29日～同10月1日	(道南太平洋海域)
中央水試 (おやしお丸)	平成9年9月29日～同10月2日	(道西日本海海域)

*1: 平成元(1989)年～平成8(1996)年までの平均値を使用しました。

*2: 1988年に小型の暖水塊が釧路近くに接近した例はあります。

*3: 津軽暖流が北海道沿岸近くまで大きく蛇行してから三陸方向へ流れる状態。

(中央水試 海洋部)

海況速報

平成9年度 第4号(通算 No.58b)
平成9年11月4日
北海道立水産試験場

内容についての問い合わせは

中央水試海洋部 0135-23-4020

9月下旬～10月上旬の海況、 10月下旬の海況(道北日本海を追加)

【日本海海域】

日本海スケトウダラ共同調査終了後、10月下旬に例年よりも約3週間遅くなりましたが、道北日本海の観測を行ったので、その分を追加します。

道北日本海の対馬暖流は、武蔵堆の西側を北上した後北東に向きを変え、礼文島の北西側で本道側に流路を狭めてさらに北上しています。

水温について、表面では水温の下降する度合いが大きい時期に観測時期が遅れてしまったために、累年平均(*1)と比較ができないので、表面を除いた比較をします。北緯44度30分線では、累年平均に比べ、東経140度00分以東の本道側では、各層とも $-0.7\sim 0.7^{\circ}\text{C}$ の範囲内にあるところが多くなっているようで、東経140度00分より西側では、200m層では約 -1°C 、50m層では $-4.5\sim -2.5^{\circ}\text{C}$ と浅くなるほどマイナス偏差が大きくなっているようです。北緯45度30分線では、50・100m層について、累年平均に比べ、東経140度50分以東では $-1.4\sim 0.7^{\circ}\text{C}$ 、東経140度50分より西側では、 $-5\sim -2^{\circ}\text{C}$ と、沖側でマイナス偏差が大きくなっています。ところが、200m層では、岸側の -3.2°C から最も沖側の -0.3°C へと、岸側でマイナス偏差が大きくなっていて、沖側の冷水が岸側に張り出している状況が見られます。

本道西岸には、前回に引き続き暖水渦が積丹半島西方沖(中心:200m層水温 3°C 以上)にあります。この暖水塊の本道側では、積丹半島付近から瀬棚方面にかけて50m層では 9°C 以下の、100m層では 5°C 以下の冷水域が形成されています。また、瀬棚付近から津軽海峡方面に向け、本道西岸に沿って表面で冷水域が形成されており、江差沖では 17°C 以下となっています。

瀬棚西方、北緯42度30分線を北上する対馬暖流の流量は前回に比べ大きく減少し、1988年の観測開始以来、周年を通して最低の値(全体平均の6%)となっています。

水温について見ると、暖水渦・冷水域を除き、累年平均に比べ $-2\sim 0^{\circ}\text{C}$ のところが多くなっています。特に、北緯42度30分線の最も沿岸寄りの観測点の50m層では、水温が 7.6°C (累年平均に比べ -5.2°C)となっていて、1989年以来最も低い水温となっています。

余市における8月下旬以降10月中旬までの沿岸水温(旬平均)は、平年値に比べ、9月上旬の $+0.1^{\circ}\text{C}$ から10月上旬の -1.1°C の間(「平年並み」から「かなり低い」状態)で推移しました。

【道東太平洋海域】

北緯41度以北の海域に入り込んでいる大きな暖水塊(中心:200m層水温 8°C 以上)は、大型のまま勢力を保ち続け、前回(8月)よりもさらに北東側に移動してきました。この

ため、暖水塊と道東沿岸の間が狭くなり、この海域での親潮の面積が狭くなっています。また、親潮の一部（この場合例えば100m層水温5℃以下）は、この暖水塊の東側、東経146度よりさらに東側を南下しているようです。この時期に、大型の暖水塊が道東沿岸にここまで接近した例は少なくとも過去10年間にはありません(*2)。

水温について見ると、暖水塊内を除き、累年平均に比べ、道東沿岸沿いでは-2～0℃の範囲内が多く、その他では-2～2℃の範囲内が多くなっています。

【道南太平洋海域】

道南太平洋海域では、200m層で前回（8月）に引き続き水温5℃以下の親潮の影響が広がりました。100m層においても、前年同期（10月）では水温9℃以下のところはありませんでしたが、今回は観測海域の北側半分では昇温が遅く、ほとんどのところで8℃以下になっています。このように、親潮の影響が強く残っているのは、津軽暖流がまだ渦モード(*3)になっていないので、津軽暖流の影響が北海道側にはまだ大きく及んでいないためと考えられます。

水温について見ると、累年平均に比べ、白老南方観測線上の恵山東方以南の海域と、浦河南西観測線の青森県尻屋崎東方海域100m以浅で-1～1℃の範囲内が多くなっています。しかし、その他の海域では各層とも、累年平均に比べ、-6～1℃の範囲内にあり、やや低いからかなり低い水温となっています。

【オホーツク海海域】

宗谷海峡東部から知床岬沖までの沿岸に沿って宗谷暖流が明瞭に見られます。また、宗谷暖流の沖側の冷水帯は宗谷海峡の東部にだけはっきりと見られます。

水温について見ると、累年平均に比べ、表面では-1～2℃の範囲内にあるところが多く、宗谷暖流域内の50m層以深の最高水温帯では、-2℃前後のところが多くなっています。宗谷暖流より沖合の冷水域の50m層以深では、累年平均に比べ、-2～-1℃の範囲内にあるところが多くなっています。宗谷暖流の幅が網走湾から知床岬に沿ってやや狭くなり、沖合から冷水が張り出してきているところの50m・100m層では、累年平均に比べ、-7～-5℃になっているところがあります。

資 料 〔観測期間〕

青森水試 (東奥丸)	平成9年9月30日～同10月1日 (東北日本海海域)
稚内・網走水試 (北洋丸)	平成9年9月29日～同10月1日 (オホーツク海海域)
稚内水試 (北洋丸)	平成9年10月23日～同10月26日 (道北日本海海域)
釧路水試 (北辰丸)	平成9年10月2日～同10月5日 (道東太平洋海域)
函館水試 (金星丸)	平成9年9月29日～同10月1日 (道南太平洋海域)
中央水試 (おやしお丸)	平成9年9月29日～同10月2日 (道西日本海海域)

*1: 平成元(1989)年～平成8(1996)年までの平均値を使用しました。

*2: 1988年に小型の暖水塊が釧路近くに接近した例はあります。

*3: 津軽暖流が北海道沿岸近くまで大きく蛇行してから三陸方向へ流れる状態。

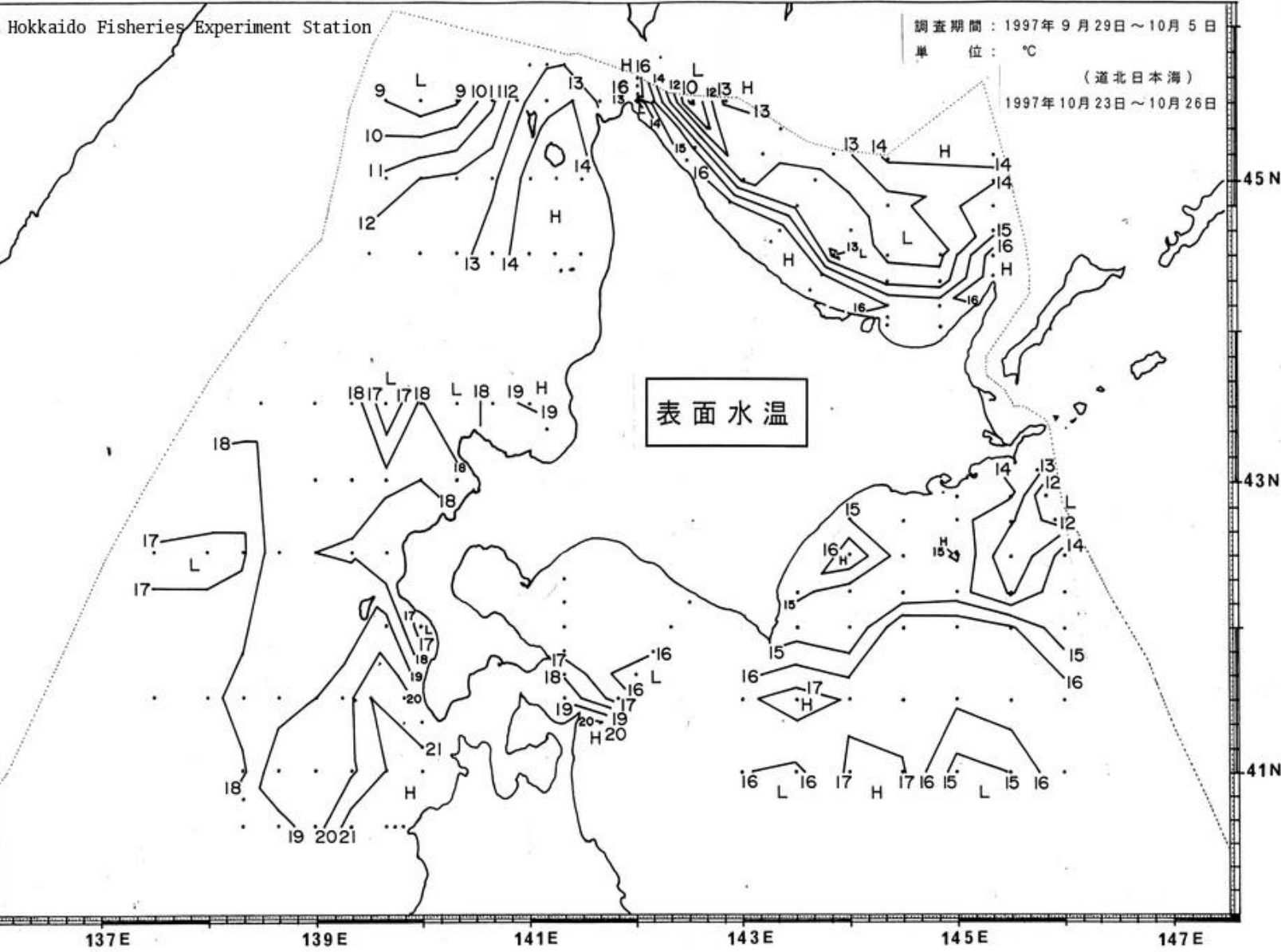
Hokkaido Fisheries Experiment Station

調査期間：1997年9月29日～10月5日
単位：℃

(道北日本海)

1997年10月23日～10月26日

表面水温



137 E

139 E

141 E

143 E

145 E

147 E

45 N

43 N

41 N

Hokkaido Fisheries Experiment Station

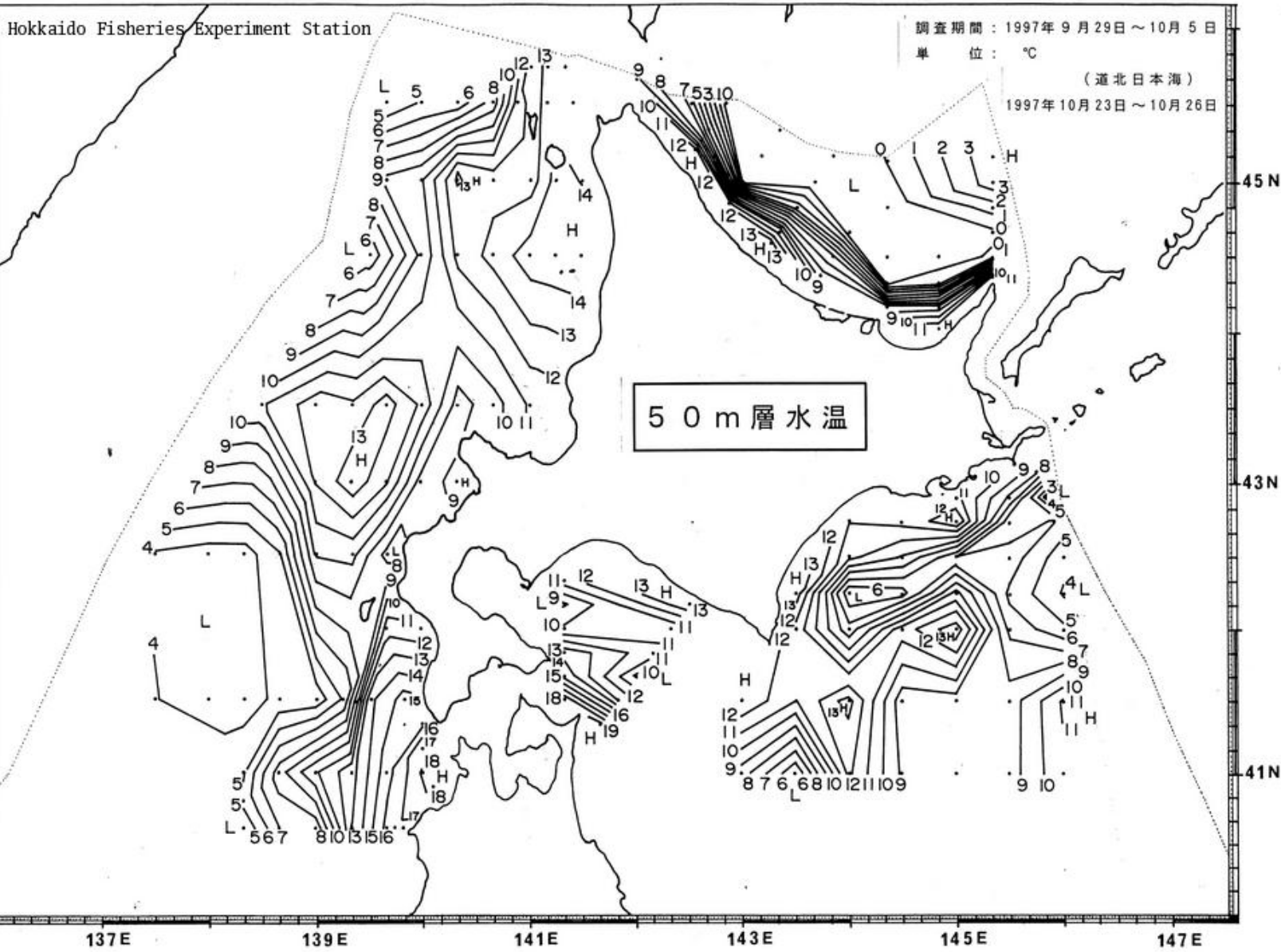
調査期間：1997年9月29日～10月5日

単位：℃

(道北日本海)

1997年10月23日～10月26日

50m層水温



137E

139E

141E

143E

145E

147E

45N

43N

41N

Hokkaido Fisheries Experiment Station

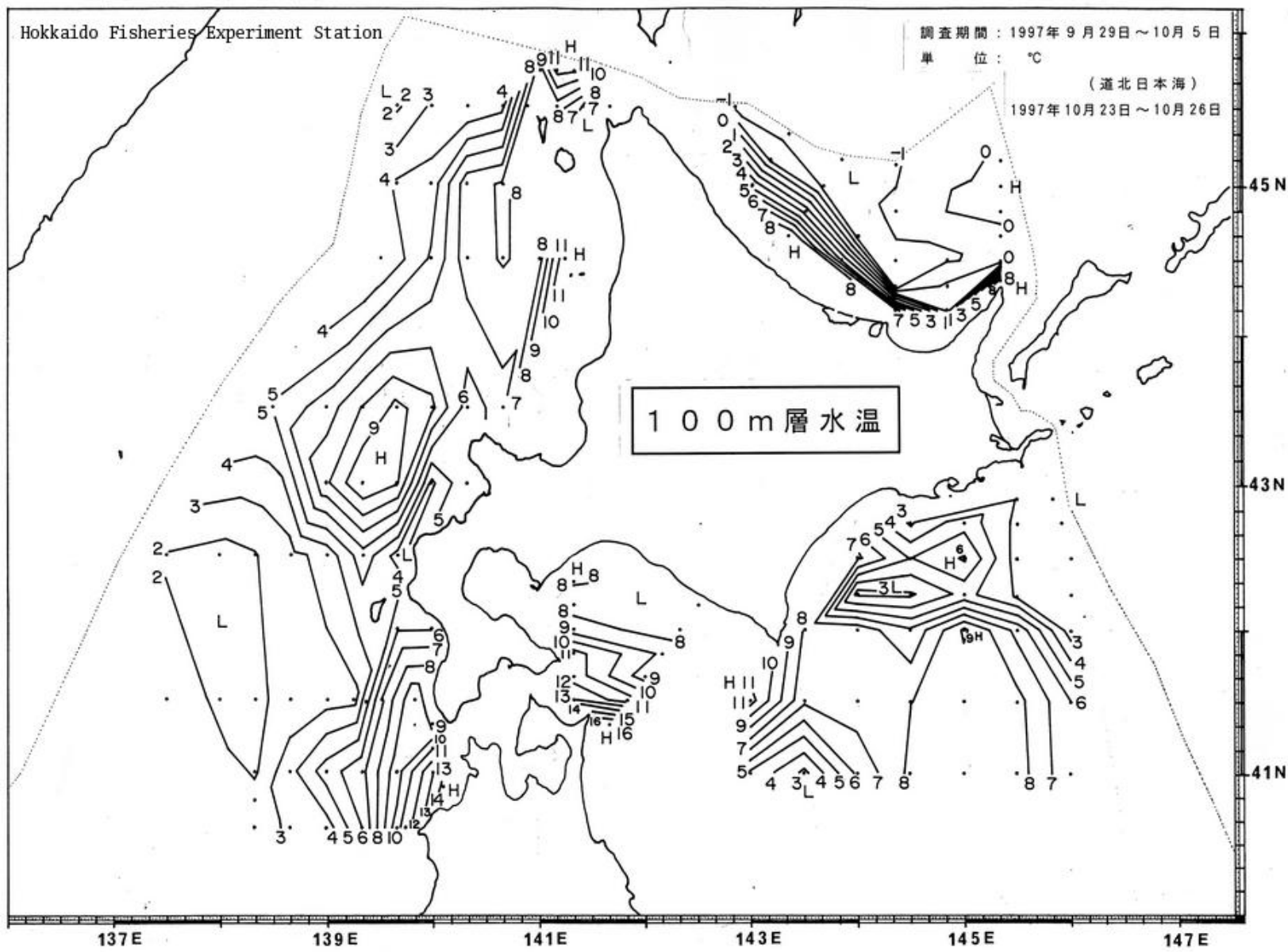
調査期間：1997年9月29日～10月5日

単位：℃

(道北日本海)

1997年10月23日～10月26日

100m層水温



Hokkaido Fisheries Experiment Station

調査期間：1997年9月29日～10月5日
単位：℃
(道北日本海)
1997年10月23日～10月26日

200m層水温

